

# OSFだより

第108号 2011(H23)年6月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138  
osf-midori1911@coda.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com  
OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舍の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

## 宋三姉妹の歩み

会長 岡本 正

中国近代史を飾る宋三姉妹の生涯について考えてみたい。宋家は上海の資産家。そこに慶齡、藹齡、美齡の優秀な姉妹が育った。同じ父母の下に、同じ環境で、同時にアメリカに留学し、それぞれ中国の有力者と結婚した。

現在、次のように評価されている。「慶齡は人民と、藹齡は富と、美齡は権力と結婚した」。出発点は一緒でも行く先は大きく異なった。どの道がベストであったか、みなさん考えてみてください。私にはよくわからない。

その中の長女の慶齡に触れてみたい。三百年近く続いた清朝を倒した革命のリーダー孫文と結婚した。結婚式は東京で、仲人は日比谷公園内のレストランまつもとろうしゅん松本楼の主人。先年中国の胡錦濤主席来日の折、このレストランで食事をし、昔を偲んだという。

孫文の死後は、中国の共産革命に協力し、革命達成後は副主席に就任した。私が感銘を受けたのは、政府の大幹部の中で、唯一人最後まで入党せず、無党派を通じたことである。

さらに文化大革命の中にあって、ほかの幹部が毛主席を恐れて、誰一人直言しなかったが、彼女一人はそのやりすぎを毛主席に注意し続けたこと。また毛主席も彼女に敬意を払って「慶齡を攻めてはならない」と紅衛兵に指示していたこと。

彼女が亡くなった時、中国政府はニューヨーク在住の妹美齡に対し、特別機で迎えに行くからと、葬儀出席を招待した。美齡は行かず、蒋介石夫人としての誇りとメンツを通した。

日中戦争の時は三姉妹は仲良く一緒に、戦線を回り兵士を激励した。だが、立場は明らかに違い、後半60年間会うことなく激動の一生を終えた。

我々日本人にとって最もなじみ深いのは美齡である。1931年日中15年戦争が始まると早速アメリカへ行き、日本の侵略を上下両院議員に得意の英語で演説し、これによりアメリカ国民の世論が中国に大きく傾いた。

続いてスイスの国際連盟では全会一致で日本への非難決議が可決された。この間の中国外交戦略の成功は、彼女に負うところ大である。

近頃中近東で紛争が続いている。エジプト・チュニア・シリア等。宗教、部族間の殺し合い。紛争の種は尽きないが、一番多いのは独裁者と民衆の争いだろう。

世界大戦が終わり、世界各地の植民地がほとんど独立した。当時の予測では、これで経済・文化も進歩し、格差も少なくなると考えられた。しかし、現実には正反対で、特に経済格差はさらに拡大し、全世界の平和の妨げになっている。

これには色々な原因があるが、独裁者の横暴によるところが多い。「国は一人によって興り、一人によって滅ぶ」と言われている。

皆さんも、リーダーはいかにあるべきかを三人から学んでください。



宋 慶齡(左) 宋 美齡(右)  
宋 藹齡(中央)

崔 太郎 (会館生)

中国 (山東省)

神田外語大学 国際コミュニケーション学科

## 私のしたいこと

私が生まれたところは中国の東北地方です。ここは農産物が盛んで、昔から「北大倉」と呼ばれてきました。「北大倉」とはいろいろな農産物がたくさんあるという意味です。しかし、毎年農産物の豊作を喜ぶ一方で、売れ残りに悩んでいる農民も少なくありません。その原因は、中国だけではなく海外とも取引を広げたいのに、彼らにはその取引についての専門的な知識が少ないからだと思います。そこで、農民たちの悩みを解決してあげるために、私は国内と国外への農産物取引会社を作ろうと決意しました。

こういう貿易会社を作るためには、ただ夢を持つだけでは現実的には何も変わりません。専門的な知識を身につけることが不可欠だと思いました。日本が戦後わずか30年で、経済貿易大国と言われるまでに奇跡の経済復興を遂げて、世界経済トップになったのは、きっと日本人のすばらしい知恵があったからでしょう。それを信じて、私もぜひその知恵を学んで、将来自分の事業に活かしたい、と思って留学先を日本にしました。世界各国と取引を行うためには、いくつかの外国語が話せるのはもちろん、社会文明産



物であるパソコンの知識、また日本の優秀なマネジメントもしっかりと身につけることが大切だと思います。国際コミュニケーション学科は主に外国語とパソコンを教える学科なので、自分の未来を見つけるためになると思って選びました。今、私が重点をおいて勉強している外国語は、英語と日本語です。国際社会での活躍のために外国語の高い運用能力の習得を目指しています。そうすればこそ、将来貿易上での交渉などを順調にやり遂げられると堅く思っています。また、経営に関する授業も積極的に取っています。経営に関してはわからないことが山ほどありますが、一生懸命やっていきたいです。

私にとって日本での生活は毎日が新しい発見であるとともに、新しい困難との出会いです。いろいろ大変なことはありますが、わたしは自分の目標のために、いわゆる農民たちの悩みを解決するために、自分の力を尽くしたいと思います。

姜 霞 (奨学生)

中国 (河北省)

千葉大学 医学研究院 環境影響生化学専攻

## 留學生活を通じて自分で成長したと思えること

私は日本に留学して、約2年になります。来たばかりの頃は、たくさん失敗を経験しました。例えば、シャンプーを買いたいけれど、コンディショナーを買って帰ったこともありました。いろいろな面接をしましたが、全部不採用でした。アルバイトの面接もあったし、奨学金の面接もありました。ようやく去年の夏に、バイト先がみつかりました。Jassoからの学習奨励費ももらいました。こういう失敗を通して学んだことが、本当にたくさんあります。

日本に来て、私は初めてふるさとを離れて、一人暮らしをしています。何ヶ月間かは新鮮な感覚や体験を楽しみましたが、孤独や寂しさや悲しみなどもありました。学習や生活環境などの不適應があり、経済的にもたいへん苦しいこともあってストレスがたまり、私は怒りやすくなりました。その時期は私の25年の人生中で一番の沈滞期でした。でも、私はよく「今も何も無いのだから、これ以上なくなることはない。これからの毎日は今日よりよくなるはずだから、良い明日が来るように、頑張ろう。」と言って自分を励ましていました。その沈滞期を過ぎた後、私はだんだん明るい性格に戻って、元気になりました。その体験から、困難に直面した時は勇気を持って問題を解決することだと思えるようになりました。日本語について言うと、以前は



何も分かりませんでした。今は日常会話が大丈夫です。日本語の進歩は私の日本語の先生と研究室の先生の存在が大きいです。話す時、よく間違えますが、先生たちは親切に教えてくださいます。そのおかげで、私の日本語は進歩が早かったのではないかと思います。研究についても、進歩があります。日本に来る前、私は簡単な実験方法だけしかできませんでした。今は複雑な実験だけではなく、分からない実験でも資料や論文を探して行うことができます。自分で感じているのは行動力や研究をする能力がついてきたということです。また、色々な日本文化に触れて、多くの文化を知るうちに世界観と思考の視野も変わってきました。世界観が前向きになって、思考の視野も広まりました。

この2年間に私の成長したことのすべてを述べることはできません。でも、日本留学の経験は私の人生に重要な精神的な富であり、これらは私にとって一生役に立つと思っています。

**最所 賢二**（奨学生）                      ペルー（フニン）

神田外語大学 国際コミュニケーション学科

### 留学生活を通じて自分で成長したと思えること

私は留学生活を通じて一番成長したと思うのは、「夢は自分の手で掴むものであること」と「志を高く持ち、努力する覚悟さえあれば、どんな高い壁でも乗り越えられること」に気づいたことです。

私が初めて来日したのは、お弁当工場で働いて、日本で稼いだお金でペルーの大学で勉強し続けるためでした。当時、18歳だった私が工場の仕事で一番辛いと思ったのは、仕事の「体力的な」大変さではなく、意識の低い日系人同僚と一緒に日々を過ごすことでした。もちろん、同僚が皆同じだったとは言えないのですが、言葉さえわからず単純な労働で、稼いだお金に「自己満足」する人も少なくありませんでした。このせいか当時の私にとって、日本の大学進学は「夢のまた夢」でした。しかし、工場の仕事で2～3ヶ月くらい経ったとき、せめて日本語が話せるようになりたいと思いました。それで、毎日仕事が終わり、自習で日本語を勉強することにしました。その結果、日本滞在1年目に「日本語能力試験3級」に合格し、翌年に「2級」に合格しました。日本語が話せるようになっていった私を



見て、「賢二を見習って、私も頑張ろう」と言ってくれた同僚もいましたが、大半の人は「日本語ができるようになったって、給料も何も変わらないじゃないか!」と軽蔑して笑いました。そこで、私は仕事を辞め、稼いだお金を投資し、日本語を本気で勉強することを決断しました。そして、文化外国語専門学校で1年間勉強した後、日本滞在3年目に「日本語能力試験1級」に合格でき、「夢のまた夢」だった大学進学に挑戦するチャンスを掴めました。それで、幸いな事に、今の神田外語大学に入学ができただけでなく、ハーバード大学並みの教育レベルを持つダートマス大学で交換留学生として1年間勉強することもできました。

上記の経験により、私が「自分の可能性は自分の努力次第である」と信じる者になり、これからも全力で頑張りたいと思います。

**梁 生細**（奨学生）                      中国（福建省）

千葉大学 工学研究科 建築・都市科学専攻

### 留学生活を通じて自分で成長したと思えること

あっという間に、日本に来てもう3年半が経ちました。長い留学生活で、沢山の喜びも、苦しみも味わうことができ、試練を乗り越え、自分自身は着実に成長できているということを実感しています。

来日当初の半年間、大学院に進学するため、研究生として千葉大学に在籍していました。受験準備期間が2か月しかなかったのですが、悔いの残らないように頑張ってきました。毎日早朝から深夜まで勉強したので、異国生活の寂しさと望郷の思いは全く感じていませんでした。わからない問題にぶつかったら、自分でいろいろ調べたり、研究室の先輩たちに教えてもらったりして、解けるようになりました。更に、このようなコミュニケーションを通じて周りの人と仲良くなりました。先輩たちのご指導のお陰で、入学試験に一発合格してとても嬉しかったです。しかし、それよりもいつまでも諦めないことという収穫はもっと嬉しかったです。

私費留学生にとっては、学校に通いながらアルバイトをするのが普通の状況で、私も例外ではありません。これまで、夜間仕分け、商品アピール、着ぐるみスタッフなどのアルバイトをしてきました。それに伴い、良く仕事が予定通りに終わった時の達成感を感じ、お客様の満足そうな顔と子供たちの喜んでくれる姿が目に見えようになりま



した。仕事はもちろん大変でしたが、大変なことより、むしろ日本の社会と触れ合うことで得た貴重な体験だと信じています。世の辛酸を舐めれば、人生の幸せをもっと感じられるのではないのでしょうか。

郷に入っては郷に従え、日本の文化や風俗を学ぶべきです。それで、ボランティアの先生の日本語と日本文化の授業、学校の国際交流会館で行われるイベントや大学祭に積極的に参加し、沢山の日本の友人と出会い、楽しくコミュニケーションを取ることができました。皆で美味しい料理を食べたり、関心のある話題やニュースについての意見を交換したりすることで、常にその場の雰囲気盛り上がりました。このような活動に参加することで、日本語が上達し、日本という国に対する理解も深まるようになっていきます。それに、自分の努力で周りの日本の友人に中国のことをもっと理解して頂ければと思っています。

留学生活で経験したことは私の人生の貴重な財産となります。今後、日本での留学生活をもっと大切に、積極的に有意義なことをし、自分をより成長させて行きたいと思っています。

# トピックスTopics!

## ☆奨学生、房総旅行

5月14,15日、今年は千葉の北部へ。この地域は地震の被災地で、壊れた家もいくつか見うけられた。早く復興してほしいと願うばかりだ。

天気も良く海も穏やかで、みんな子供のように波と戯れていた。



## 会館生、動物公園へ

5月4日、会館生と近くのみつわ台動物公園へ行く。連休中なので、子供連れがたくさん来ていた。

珍しい動物を見ながら童心にかえり楽しい一日を過ごした。



## OB来団

~5月6月は多くのOBが財団に顔を見せてくれた。みなさんのはつらつとした笑顔に会えて、私たちも元気をもらえた。~

5月28日、OBのダム君(H14会館生、ラオス)が来宅。彼は岩手在住で、今回の地震で避難生活を送っていた。どうしているかと心配していたが、

元気そうで一安心。彼を気遣って昔の仲間も集まってくれた。

4月27日、李スミンさん(H21年奨学生、韓国)が来団。彼女は母校千葉大の先生として活躍している。優秀な学生をたくさん育てて下さい。

5月17日、シム・ティナさん(H6奨学生、マレーシア)が昨年結婚したご主人とともに来日、来団してくれた。とても優しいような男性で、幸せそうだった。今、ご主人の国、インドネシアに住んでいるそうだ。

6月14日、呉銘洪さん(H14家族宿舍、台湾)が家族4人で来日し、訪ねてくれた。今回は家族旅行で来日とのこと。IT関連の日系企業の幹部として頑張っている。息子さんとも7年ぶりだ。大きくなってびっくりした。



ティナさんご夫婦



李スミンさん



ダムさんと



(閻宏偉さん)



篠さん、李さん



(盧東川さん)

5月17日、篠佑基さん(H14会館生、日本)と李秀賢さん(H14会館生、韓国)夫婦が来団。篠君が香港に転勤になり、近々二人で行くとのこと。ずっと海外勤務を望んでいたそうで、向こうで活躍してくれるだろう。

6月7日、盧東川さん(H17年奨学生、中国)が来団。6月9日に中国に帰国するとのこと。

これからも母国でがんばってください。

6月14日、閻宏偉さん(H21奨学生、中国)が来団。今春博士号を取得し、母国で大学の先生になるそうだ。盧さん、閻さん、体に気をつけて活躍してください。

~また、遊びに来て下さい!~

## 役員会開かれる

6月8日、財団の役員会開催。今年も役員の方々への報告会終了後、留学生たちの手料理で楽しい交流の場が生まれた。時間をつくってくださった役員の方々、留学生の皆さん、ありがとうございました。



呉銘洪さん一家